

Ⅲ 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の5大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供による助成を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

1. 対象学生と目的

- (1) 工学系学生 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点（環境・情報・国際化・技術者倫理等）について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。
- (2) 人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

2. 特徴

- ① 複数の協力機関からの講師陣
- ② キーワードによる講義の一貫性の保持
- ③ 大学毎の特徴づけ
- ④ 学生と講師の双方向授業

3. 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	協力機関	特徴	開講年度
県立広島大学	キャリアビジョン	2007.4.9.～ 2007.7.23.	キャリアデザインオフィス ㈱リクルート 広島市楠那公民館 マツダ(株)	社会人・企業人の価値観を論じ、自らのビジョンについて考える演習型の講座。前半の講演形式の講義は公開講座で80名が聴講、後半の演習は54名が受講した。 社会を知り自らの価値観を醸成するプロセスを通じて、受講者自身が自らの成長を実感できる点など、高い評価を得ている。	1997年
広島大学 大学院	能力開発特論 (ジョイント講義)	2007.4.13～ 2007.7.20	中国電力(株) 日本アビエ-ム(株) (社)中国地域 ニュービジネス協議会 キャリアデザインオフィス マツダ(株)	社会人・企業人として必要な技術の視点を理解し、それらを演習を通じて論理的にとらえ論述する能力醸成講座とした。28名が受講し、自らの関心事をディベート論題としてとりあげるなど、学生の積極的な取り組みが評価できる講座となった。 今年度は論題「日本は穀物を原料とするバイオエタノールの導入を推進すべし」に取り組んだ。	1995年
エリザベト 音楽大学	人間学VI-1 (ボランティア 活動)	2007 5.26,6.2 集中講義 夏休み実習	特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター 中国経済連合会 特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima キャリアデザインオフィス ひろしままちづくり ファシリテーターズ	広島県内単位互換科目。高大連携事業。 講義と実地研修と組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。 36名が二十数か所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年
安田女子 短期大学	現代社会論 (ニュー価値観論)	2007.9.21～ 2008.1.11	ひろしま市民活動 ネットワーク HEART to HEART マツダ総研 マツダ(株)	前半の講義では、現代社会の仕組みを理解し、現代の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点からとらえるとともに、これからの生活者、社会人としての役割について、学生と一緒に考える機会を持った。 後半の講義では、前半の講義に関連した演習テーマを設定し、それをグループ単位(受講者60名を9のグループに編成)で調査、考察、発表することにより情報収集、分析、発表する能力を身につけさせた。	1998年
広島工業 大学	技術の新視点	2007.9.25～ 2008.1.22	中国電力(株) 日本アビエ-ム(株) (社)中国地域 ニュービジネス協議会 キャリアデザインオフィス マツダ(株)	技術の新しい視点を理解し、これからの技術者に求められる能力要件について学ぶ講座で、自由科目。3年次生5名が最終まで受講した。 前半の講義では、地球資源・環境、情報化、国際化、技術者倫理の各視点から学習した。後半は「エネルギーと電力」をテーマとしたディベート講座とし、演習を通して、情報の収集・分析を基に、論理的に考え、論じられる能力の修得を目指した。	1997年

以上の他、安田女子大学現代ビジネス学科「ビジネス文書演習」、県立広島大学「インターンシップ実習・ビジネスマナー講座」等へ講師派遣を行った。